

道南太平洋海域スケトウダラニュース

平成 15 年度 第 2 号 2003 年 9 月 30 日

北海道立函館水産試験場室蘭支場 TEL : 0143-22-2327 FAX : 0143-22-7605

平成 15 年度道南太平洋海域におけるスケトウダラ漁況の見通し

道南太平洋海域のスケトウダラ漁況の見通しについてお知らせいたします。

(内容は、各協議会総会、会議等で報告したものです)

スケトウダラニュースは PDF ファイルとして函館水産試験場ホームページからもごらんになれます。ご利用ください。

<http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/exp/hakodate/index.htm>

- ①資源は前年に引き続き低水準にあり、来遊資源量(重量)は前年と同程度か減少すると予想されます。これに伴い漁獲量も前年と同程度かやや減少するでしょう(3万トン前後)。
- ②漁獲物のサイズのばらつきが大きくなるでしょう。
- ③漁期前半の10、11月の総漁獲量は昨年同様低い水準となるでしょう。
- ④漁場は例年同様水深300m前後に形成され、漁期が進むにつれて浅くなるでしょう。また、昨年と同様に魚の分布量は胆振側で多く、渡島側で少なくなる可能性があります。

1. 平成10~12年度までの高い漁獲を支えてきた平成6および7年生まれの魚は今年8歳以上となり、尾数重量とも昨年よりさらに減少していると予想されます。また、後に続く平成8~10年生まれ(今漁期5~7歳)、今年から新たに4歳として加わる平成11年生まれの魚は少ないと予想されることから、資源は依然低水準にあり、来遊資源量は昨年と同程度か減少すると考えられます(図1)。これに伴って、漁獲量も前年並みか減少するでしょう(3万トン前後)。ただし、漁獲量は魚の分布状況の影響をうけると考えられるので、今後の分布状況の推移に注意してください(魚が渡島側に偏った場合には多く、胆振側に偏った場合には少なくなる可能性があります)。

2. 例年漁獲物の中心を占める体長40cm台前半の4~5歳魚は、前述の通り少ないと予想されることから、各年齢の魚が同じような比率で漁獲されると考えられます。このため昨年同様に漁獲物のサイズのばらつきが大きくなるでしょう(図2)。

3. 9月に実施された計量魚探調査の結果から、道南太平洋海域に分布するスケトウダラの量は昨年と同様少ないと判断されることから、漁期はじめの10~11月の漁獲量は昨年並みの低い水準にとどまるでしょう(スケトウダラニュース第1号を参照してください)。

4. 魚群の分布水深は300~400mと例年と大きく変わらないことから、漁期はじめの漁場水深は例年同様となると考えられます(スケトウダラニュース第1号を参照してください)。

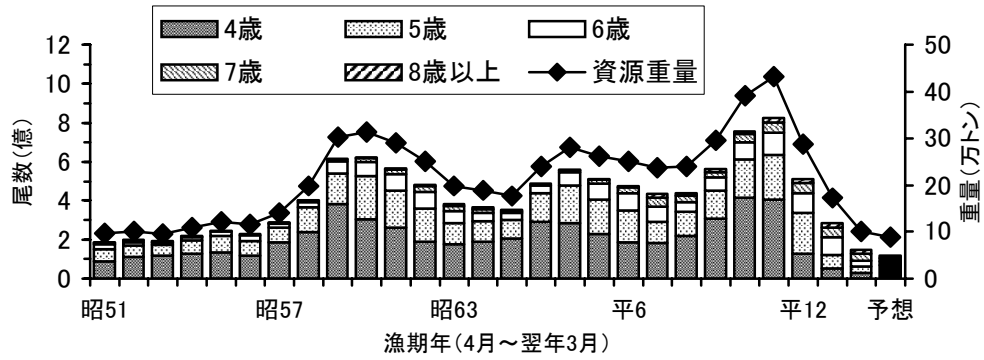


図1. 道南太平洋海域における4歳以上のスケトウダラ来遊資源尾数および重量
尾数は年齢別、重量は4歳以上の合計値。平成15年は予想、平成11年
以降の値は暫定値。

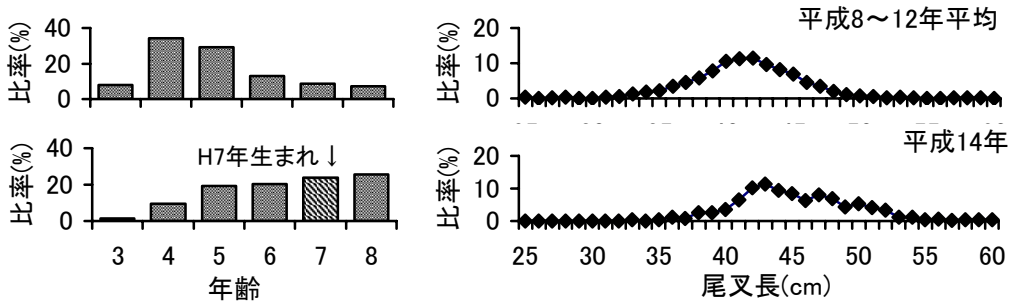
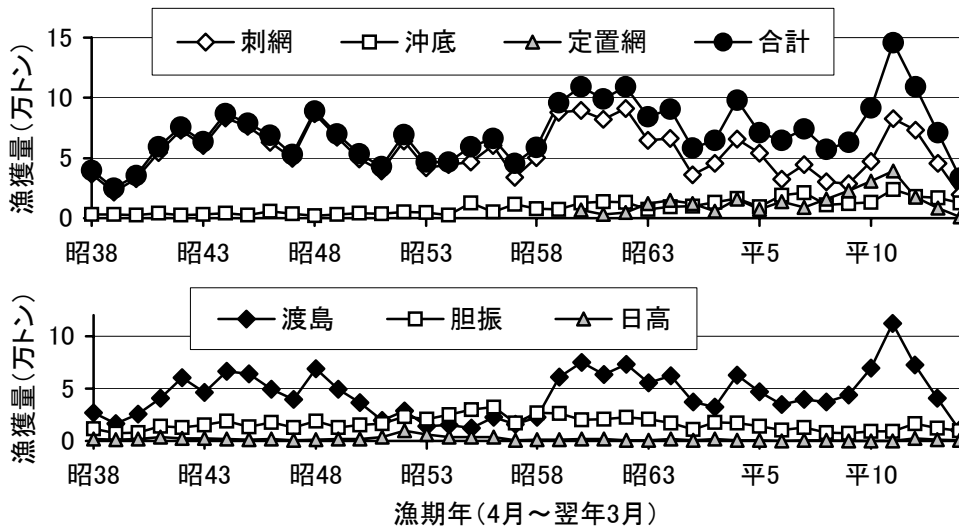


図2. 道南太平洋海域における漁獲物体長組成（全漁業合計）



参考 道南太平洋海域の漁業別（上）支庁別（下、刺し網と定置網）スケトウダラ漁獲量の推移